

1. 2. 3. 4.
こわつお ー ー ー ー
のれみ主 世らびは をのとお はおにそ なも向る れいけべ てをしき み知そか

くりの の にてまと をひなき ー ー ー ー
ばつぎも あよしわ おうにれ げをはを 主あた捨す ー ー ー ー
にただて まうやた

こるさま とたしわ をめさざ も主のり はみき つまゆつ かずたか えしかれ ゆくにし ー ー ー ー
く ー ー ー ー
な あ み

みりふあ ちけれし りぬを ひおさい かおぼそ り主きが ははのせ かわかま がれげよ やらない



※4節：ストウ夫人著 大橋吉之輔訳
「アングル・トム的小屋」の中に
引用された、中世の有名な讃美歌より

言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。
わたしたちはその栄光を見た。それは父のひ
とり子としての栄光であって、めぐみとまこ
ととに満ちていた。ヨハネ 1:14

5

主がましまさずば われらの^{さび}寂しさ
いかばかりにあらん われらの^{つみ}罪とが
あがないぬし主に つつまずに^の述べん
主は^{なぐさ}慰めたもう。

6

いのちのことばと いのちの水をば
たえせず^{した}慕いて ^{もと}み許にとどまらん。
まことの悔^くいもて ^{あつ}熱き主の^{むね}胸に
わが^み身をゆだねん。

7

人の世の^{うみ}海の^{あらなみ}荒波はわれに
おそいくるおりも 主は^{いかり}錨となり
^{きゅう}窮する^{きわ}極みに ^{ひかり}み光となりて